

# 薬は吸収されて作用を示す

- 内服薬) 服用後消化管から吸収され、血液中に移行して薬が作用する部位(臓器・組織など)に届く
- 注射薬) 直接血液中に投与(静脈注射・点滴など)  
局所に投与(血液を介さずに患部に投与)
- 外用薬) 皮膚や粘膜等から血液中に吸収されるもの  
局所に作用するもの

→局所に作用するもの以外は、**血液中に移行**する必要がある

## 消化管で薬を吸収するためには

- 服用した薬は、消化管の中で溶解・分散 (細かく吸収されやすい形) し、消化管粘膜から吸収される
- 錠剤・カプセル剤・顆粒剤・散剤・口腔崩壊錠 (OD錠) など 様々な形があり、消化管で薬が崩れて細かくなる必要がある
- 一般的に薬は、水で服用する前提で設計・製造されている 適切に吸収するために → 薬はコップ一杯程度の水で服用

## お茶や牛乳、ジュースで服用は？

Q.食後の薬をお茶・牛乳・ジュースで服用してもいい？

→直ぐに水が手に入らない状態(出先・災害時など)  
では無い場合は、お水で服用すること

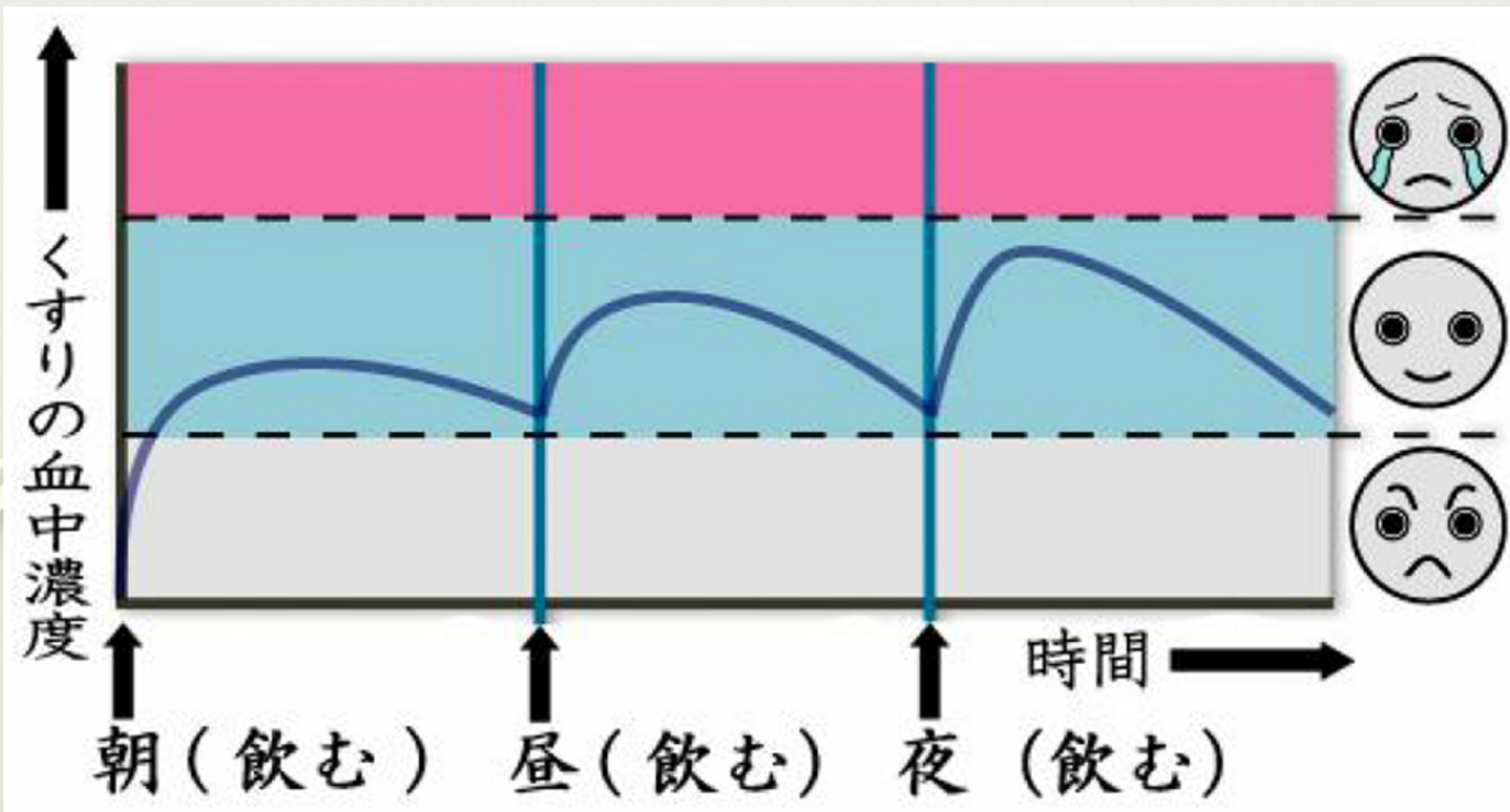
薬は水で飲むことを前提に作られている  
水以外で服用した場合のことは想定されていない  
つまり、問題無いか問題有るか不明であることが多い

# 服用時間について

- 食後(毎食後・朝食後など) 食事の後から30分間程度
- 食前(毎食前・夕食前など) 食事の60分から30分前に
- 食間(前の食事と次の食事の間) 前の食事の後2時間から3時間  
空腹時 経過し、次の食事まで  
2時間から3時間ある時間≒空腹時
- 食直前(食事をする直前) 薬を服用してからすぐに食事

# 薬の「血中濃度」とは・・・

## ● 1日に3回服用する薬の場合



副作用が  
現れる範囲  
(毒性発現最小濃度)

中毒域

効き目が  
現れる範囲  
(最小有効濃度)

至適濃度域

効き目が  
現れない範囲

無効域

# 薬の血中濃度が重要

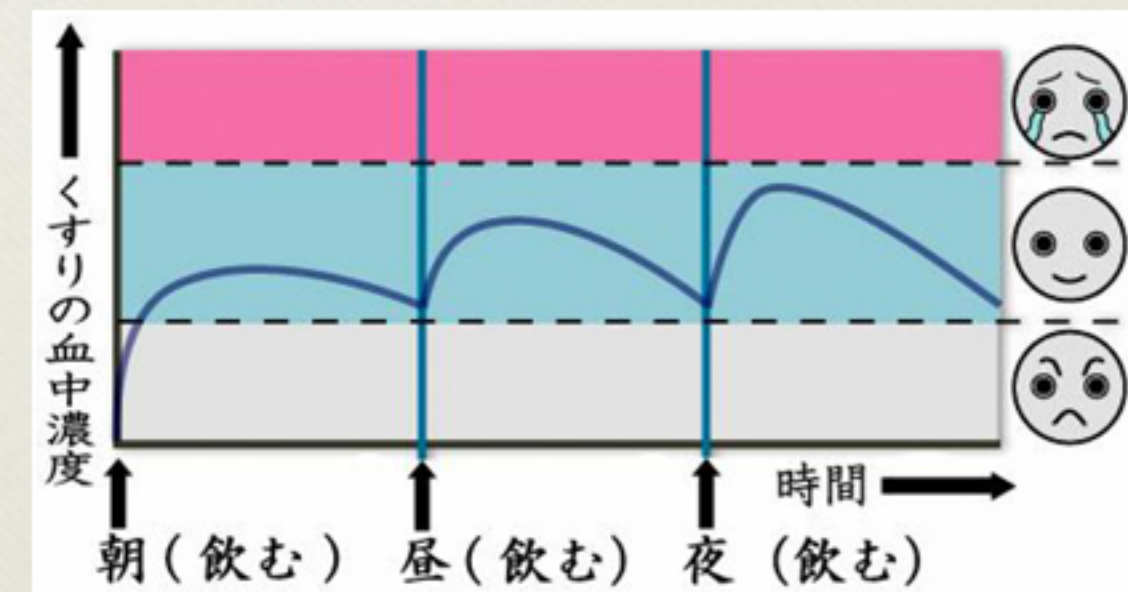
薬を効果的に使用するためには、薬が血液中に移行した濃度(薬物血中濃度)を維持することが必要

そのためには、**医師の指示通り規則正しく**服用すること

自分の判断で1回に飲む量を変えたり、減らしたりしてはダメ

何か不安な事が有れば、薬剤師または医師に相談

自己判断は場合によっては大変危険



# 処方せんは、オーダーメイド

- 医師は患者さんの病気・血液検査結果・日常生活の状態食事や栄養状態など様々な背景を検討した上で、患者さんの薬物療法を設計し、処方箋を発行
- つまり医療機関からの処方せんは、あなたのために作成されたあなたのためだけのお薬
- 医療機関からの薬を処方された患者さん以外の人に、**勧めたり使用させてはダメ**

# お薬手帳はひとり1冊

- 患者さんが今現在どのような薬を服用しているのか、覚えておくのは困難です。また医療機関で必要な情報は、医薬品名だけではなく、含有量の規格や服用量も重要な情報
- そのためお薬手帳は、全ての医療機関・薬局通して1冊に記録するようお願いいたします
- **お薬手帳**は、あなたの大事な**薬の日記**になります。大事な日記は何冊も用意しません。1冊にまとめましょう。



## 困った時には薬剤師へ相談

本日お話しした内容は、一般的なものです。  
患者さんの状態(病態・年齢・性別・体格・腎機能・肝機能など)  
や服用している薬の性状や注意点によって、どのように  
服用するべきか、個々に異なります。

大事な事は、医師の指示や薬袋の服用方法、薬剤師の説明を  
守ることが適切な薬物療法の第一歩となります。

- どのような事でも薬剤師にご相談下さい

## まとめ

- 処方薬はあなたの治療のためのオーダーメイド
- 適切な効果を得るために、用法・用量は正確にしましょう。
- 薬の日記であるお薬手帳はひとり1冊にしましょう。
- 服薬で気になる事は、お薬手帳に記録し  
医療機関や薬局で相談しましょう。
- 薬に関する疑問・心配事・困り事があれば、  
薬剤師にご相談下さい。